Graded Direct Method Association of Japan

News Bulletin

第27号　英語教授法通信　1975年5月20日

編集・発行・GDM英語教授法研究会　事務局 〒154 東京都世田谷区豪徳寺2-27-19吉沢美穂方 TEL.(429) 5929

英語教育の改善に関するアピール

1974年12月1日
1974年度日本英語教育改善懇談会

1974年度日本英語教育改善懇談会は，英語教育の現状に対する認識および将来への展望に基づき，早急に改善策を講ずべき諸問題を討議した結果，「学習指導要領」，「授業時数とクラスサイズ」，「教員の研修」について次のとおり意見の一致をみた。懇談会は，これを英語教育改善に関する第1回のアピールとする。

1．学習指導要領について

（1）　学習指導要領は，教員のための指針であって，教員や教科書その他の教材などを規制するものであってはならない。

上記の趣旨から，学習指導要領のうち英語に関する部分について，次のことを要望する。

ア．指導内容については，基本的な事項を示すにとどめること。

イ．中学校学習指導要領の学年別指定をすべて廃止すること。

ウ．語いについて，語数および中学の語・連語の指定を廃止すること。

（2）　上記(1)に関連し，教科書について，次のことを要望する。

ア．中学および高校の教科書について，定価やページ数の枠，および活字の大きさや色刷りの制限を緩和すること。

イ．中学の教科書の広域採択制度を廃止すること。

ウ．中学の教科書採択に際して，いわゆる「学年進行」を認めること。

2．授業時数とクラスサイズについて

（1）　クラスサイズについて，次のことを要望する。

ア．効果的な語学教育の見地から，1学級の生徒数は20名を上限とすること。

ただし，現状に即して考えれば，1学級の生徒数を漸減する措置を続けて，多くとも35名をこえることのないようにすること。

イ．当面，各都道府県において，実験的に中学の初学年などで，現行の学級の2分の1程度の生徒数で語学教育ができるような措置を講ずること。

（2）　授業時数について，次のことを要望する。

ア．中学の授業時間数は，現行の週あたり「標準3時間」を「最低4時間」とすること。

イ．英語科教員の担当時間数は，中学・高校を通じ，週あたり15時間をこえないこと。

3．教員の研修について

（1）　中学・高校の英語科教員は，研修の必要度が特に高い。国および地方教育委員会は，現職教員のさまざまな自主的研修を可能にするため，次のような制度的・財政的裏づけを実現するよう要望する。

ア．教員の自己研修を容易にするため，教員定員の増加・研究日制度の確立・研究費の増額・補充教員の配置などの方策を強化すること。

イ．現職教育を行なう民間諸機関・団体の活動を積極的に援助し協力すること。

ウ．研修の一環として，教員が大学を利用しやすいようにすること。

エ．英語科教員には特に海外研修の機会を広く与える制度を強化すること。

オ．国および地方教育委員会・教育センターなどの主催する研修についても一層の充実を計ること。

◎　去る11月30日，12月1日の2日間12団体から各3人ずつの代表者が集まり，東京のELEC会館で英語教育改善懇談会が開かれ，GDMからは吉沢，升川，箕田さんが出席した。今回は，同会で第3回を数え，上記のアピールを世間に出すに至った。

GDMのいくつかの基本概念

片桐ユズル

たまにはGDMを整理して，いくつかの基本概念をふりかえってみる。

Feedforward and Feedback：Feedback ということは世の中でもしばしばいわれているが，まずこちらがfeedforwardで電波を出さなければ，feedback の電波はもどってこない。EP 1のはじめのところでhere / there をやることは，次の段階でのThis / That にむかって feedforward している。そしてP．10で，This is a table. This table is here. It is here. というところでThis-here / That-there というむすびつきがつくられ，あたらしいこと This / That をならったことで，かえって既習の here / there が，よりハッキリとする。これがfeedback だ。EPはこのように，feedforward⇔feedback という circuit をまわりながら，すすんでいく。

From General to Particular：It is here. / It is there. というような大ぶろしき的な何でも言える言い方からはじまって，手にもっていても，机の上にあっても，It is there. なんだが，それをもうすこしこまかく区別したいということで，in とか on をつかう。It is here. という general な言い方に対して，My hat is in my hand は，それのparticularな言い方といえる。

Yamada さんのボーシも，Masukawaさんのボーシも，どちらも his hat なのだが，あるていどなれてくると，もうちょっとこまかい差まで言いたいヨユウが出てくる。そのときにYamada's hat，Masukawa's hatという所有の形が，よりparticularな言い方としてある。おなじようにして机の足でも，イスの足でも，its legだが，その差をあらわしたいときにofが登場して，a leg of a table とか，a leg of a seat だとかparticularな言い方になる。

動詞についていえば，P．138 で“Tom is writing the word *learning* on the board. The teacher is teaching him the word *learning*”という例があるが，writing は

putting の，teaching はgiving の，learning はgetting の，より particular なしかたである。

Grading の原理のひとつが General → Particular であるからといって，まず "things / persons " をおしえ，そのあとで，"hats, tables, bottles, houses / men, women, boys, girls " に分けていくという方法は，われわれは，とらない。
それは

Logic and Psychologyがつねに一致するとはかぎらないことを，われわれは知っているから。このばあいは hats, tables, bottles, houses のようなことにまず familiar になったあとで，それらを総称して "things" というんだ，ともっていく方が psychology としてすんなり入る。あるいは I, You, He, She, It, They のような代名詞をまとめて導入しない教科書をわれわれは批判するが，かならずしも We は，相手によっては，ここでいっしょに導入せず，here / there で，sentenceというものに慣れてから，We are here. のようなかたちで入れるほうがらくだ，ということを経験から，知っている。また反対のものをコントラストして同時におしえる方がいいこともあれば，逆に go / come ; give / get のように，同時におしえると混乱をまねきやすいことばもあることが，経験から知られている。

Dale's Cone of Experience : This is a man. というような文型をおしえるとしたばあい，This is a [ ]，のハコに table, hat, book, hand, house, man, etc., etc. …… を入れかわり立ちかわり，おきかえて，文章をいわせる machine-gun drill においては，content words は弾丸だと思われている。弾丸を何回もうつことで "This is a [ ]，" という機関銃があたまの中に形づくられていく。ソウカシラ？

GDM では，むしろ "This is a man." をおしえるとしたら，まず live situation で Masukawa-san も Yamada-san も "This is a man." であることをしめし，写真でも man を見せ，黒板に stick-figure で man と woman をかいて見せ，flash card で man を見せ，This is a man. という字を読ませ，というふうに経験のいろいろな抽象のレベルにおいて，" This is a man." をしめすことにより，実感をもって "This is a man." が言えるようにする。数多くの content words を機関銃のようにうちまくるかわりに，うまくえらんだ少数の SEN- SIT を抽象のレベルのいろいろな段階に上げ下げしてみせることで，洞察させる。

English Through Pictures

sbs (株) スクール ブック サービス 東京都文京区小石川 5 - 2 - 3 〒112
電話 (03) 815 - 6341 · 6342 振替 東京 86192

Textbook- I with 1st workbook	650.
〃 - II with 2nd workbook	650.
〃 - III	650.
Recording Series- I parallels textbook- I (set of 3)	5,000.
〃 - II parallels textbook- II (set of 3)	5,000.
Filmstrips- I parallels textbook- I (set of 12)	15,000.

三年間を終って

市村邦一

1・2年のときＥＴＰで習った生徒が，今春中学を巣立っていった。3年最後の授業の時にアンケートをとってみた。

3年間で一番英語が楽しく，わかったのは中1のときで（全体の42%），一番わからなかったのは中2のとき（41%）。

私のやり方で良かったと思う点は，自分で意味を考え，ことばに対するカンがついた(62%)，英語をやっているという感じがした(41%)，正しい答が一つでないのでおもしろかった(38%)など。また良くなかった点は，いったんわからなくなるとあと全部わからなくなる感じ（57%），わかる人とわからない人との差が大きい(50%)，文法をやらないので不安(48%)，となっている。

これらの結果から見て，私がＧＤＭの良さを充分生かし切れなかったことは明らかである。以下，私の反省点を列挙する。

1）生徒がわかったものと思い込んでいる点がなかったか。

2）中以下の生徒にとって，2年生の時に学習したmake，let，keepあたり，また動名詞→不定詞→受動態→完了をＧＤＭ流に処理していったあたりで無理はなかったか。

3）あわせて，この段階に来たら，すでに習得された言語材料である日本語の導入を考えたらどうか。例えば授業の終りに次時にやることのポイント(「人にものを頼むときどう言うか」などの指示）を示せば中以下の生徒の理解の助けになるのではないか。

紙面の関係で問題点のみを示したが，アンケートからは，私のやり方に好感を持ち激励までしてくれていることがわかる。もう3年間私を挑戦させてみる気にさせたアンケートであったことを付記しておきたいと思う。

（東京都江戸川区立小松川第三中学校）

金沢から

昨年3月，金沢ＹＭＣＡが事業停止決定を一方的に下してからのこの一年，裁判所を通してその決定に強く反対しながら，それでも寺小屋のような小さな場所に，私達の活動の場を移し，不便な中をみんなで励まし合って頑張ってきました。困難な状況の中でお互いの研修が充分できなかったのが残念でしたが，今年度は是非，勉強したいと思っています。その中で，初めて金沢でＥＴＰ(1)(2)をP. 280　まで修了した生徒が誕生しました。これは子ども達にも，私達にも大きな喜びでした。

（林屋増子）

第18回　英語教授法研究会　公開講演会

と　き：　1975年5月24日（土）　　2：00　～　5：00　p. m.
ところ：　東京ＹＭＣＡ　新館の講堂
講　演：　Situation と Sentence Pattern　升川　潔
授業公開：生徒　千葉大学教育学部附属中学校　1年A組（46名）
　　授業者　千葉大学教育学部附属中学校　根古谷　常雄

初めて英語を教えて

東京都足立区立14中　田　幸　徹

4月から40学級となる巨大な中学校。英語科の教員8人。この多人数の中で独自の方法で英語を教えていくことはむずかしい。絶えず他人からの圧迫に気をつけていなければならない。彼らはいわゆる教科書さえ終らせばいいのであって余計なことは教えるな。他教科の教師までが何か文句をつけたがっているようだった。この状況の下でＧＤＭ的に1年生に教えていくことは困難なようではあったが，強引に，しかし多少は妥協して1年間やり通した。苦しい1年間であった。進度が遅れているというのでテスト前は範囲を私の方に合わせるために四苦八苦した。それでも彼らは私が教えていないことを出題し平気な顔をしていることすらあった。私が問題を作れたのは5回のうち1回だけであった。彼らは文句を言いたかったのだろうが，それを強く出せなかったのは私の教えたクラスの生徒の成績が比較的よかったことと，ＧＤＭに多少なりとも関心をもってくれた人が1人いたからだろうと思う。

検定の教科書が手もとにあったらどこでも開けてみるといい。新出語というものがいかに多いことか。7つ8つ，ひどいページには10以上も出ている。これは普通の生徒にとって負担以外の何ものでもない。これだけで嫌いになってしまうのだ。おまけにテスト，テストで追われているのだ。この状態をみて，改善しようと思わないのは一体どういうわけなのであろうか。

現在の中学校での問題を改めようと，少しずつ同僚へ働きかけてみた。が経験の上に腰をすえた固さはなかなかくずれはしない。そこで受けもっているクラスの父兄へプリントをくばって働きかけてみた。その結果，口頭や手紙での激励をいただいた。ＧＤＭというものをどれ程理解してもらえたかわからないが，私に好意をむけてくれる人もたくさんいることを知った。このように1年間やってきたが私はＧＤＭ研究者が現場において強い意志と勇気と英断を持って生徒とともに歩んでいくことがきわめて重要だということがわかった。

ニュース

★　朝日カルチュア・センターでは（新宿駅西口下車　住友ビル内）
火曜（18：00～20：00），水曜（10：30～12：00），土曜（10：30～12：00）に大人を対象としたＧＤＭの授業が行われている。担当者は　吉沢，箕田，唐木田，升川，小林，東山，成井のみなさん。
また，ここではTeachers′ Trainingも行われている。時間は毎週木曜日（18：00～20：00）で，担当は　升川，吉沢，東山さん。

★　横浜外語アカデミー（横浜駅西口下車　横浜アカデミー内）
月・金曜（17：00～18：00）小学校5～6年生。担当　小林さん。
土曜（10：30～12：30）主婦対象。
企業では　三菱重工業（横浜造船所）　月・金曜（14：00～16：00）

★　横浜ＹＭＣＡ（本館）
月曜～金曜（16：00～18：00）小学校4～6年生。
この他に　二俣川，戸塚，青葉台の各所でも，ＧＤＭによる授業が行われている。

★　鎌倉支部では婦人子供会館（鎌倉駅下車）で　金（10:30～12:00）Teachers′ Training あり。

生徒の言語活動を活発にする英語学習指導法

東京都目黒区立第九中学校

私の専門教科は英語ではないが，教科指導や生徒の学習活動の状況という観点からＧＤＭに初めて注目し，大いに興味をもったのは７年前のことになる。なぜ強い関心をもったかというと教師も生徒もみんな生々としている雰囲気にハッとするものを感じたからである。素人ながらもその原因をさぐるとちゃんとした理論的根拠をもっており，それがなにか私自身の教育観について眼を開かせるものがあったのである。

これは単に英語だけの問題ではない。当時すでに教育は原点に帰れという声が叫ばれるようになっていたが，ＧＤＭはBasic English を基本とした理論であることからいっても時代的要請にかなう具体的方法であるし，また考え方は他教科にも間接的に応用され得る可能性をもっている。甚だ漠然とした直観であるが，ともかくこれまでのともすれば沈滞気味の教科指導に活が入り，新生面を切り開く糸口になるのではないかという希望をもったのである。

まもなくして改訂された指導要領でも従来の読み書き本位の英語指導から脱皮して広い言語活動としての学習指導への移行が強調されたので，時機もよしと本校英語科スタッフが一致して情熱的に取り組み始めた。その苦心の研究精進の第一段階としての実情をさらけ出し，広く批判を仰ぎ，多くの助言を求めるために研究発表となった次第である。

ＧＤＭはアメリカ生れである。これが全く教育風土のちがうわが国に定着することはそうたやすいことではないぐらい予想はしていたが，今更のごとくその難かしさをしみじみ味わっている現状である。言語活動という高度の文化をうけ入れるのは余程困難であるのはあたりまえのことかもしれない。

現在，日本語自体が混乱期にあり，ことばが命を失い，空まわりする傾向が強まりつつあるのは教育上由々しい問題であるが，ことばが生きてくるのは人間の活力が盛り上り，文化が躍動する時であろう。そういう意味でＧＤＭの単なる技術的受け入れが本命でなく，人間性を開花させる言語活動の指導研究であることを願っている。

最後に本校英語科スタッフのたゆまざる精進と側面よりの本校教職員の協力に対し深い敬意を表する次第である。

（前・校長　荒木　敦）

ＧＤＭ導入の動機，経過について

46年度は３年生に対して，数学と組んで，学力別クラス編成による形で，また他の２学年はグループ別による授業を実施した。またこの間にmodule（15分単位の組み合せによる授業時間）方式も見学検討したりしたが，全体の教育課程に関連するので実現は不可能であった。

結局，少人数クラス，学力別クラス，時間

堺から

昨年６月のＧＤＭ講演会で，堺ＹＭＣＡの中１クラスを公開して以来，関西支部の会員数が急激に増加しつゝあります。また，この一年間，多くの見学者をむかえました。堺ＹＭＣＡ主催の小学生クラスの公開研究会にも90名の参加者がありました。ここでは今，ＥＴＰのもっているさまざまの問題点を，再検討してみようという動きが出ています。近くの金剛教会でも，月１回講師研究会が持たれ，着実な努力がつづけられています。

（田村美智子）

的方法（30分授業を週6回など）による授業形態は，教育課程，教員の定員，施設，生徒父母の心理的問題など，多くの障害にぶつかり現実には不可能にちかい状態である。とすれば，現状をできるだけ生かして，教育機器の利用など，指導方法の改善に務めるほかはない状態であった。

幸い，この期間に，教科内の話し合いを重ねた結果，英語科教師相互に共通理解が持てるようになったことである。

47年度からの学習指導要領の改訂により，「言語活動を活発にする」という方向が示された。46年にＧＤＭを知る機会に出会い，この方向に合致する method であると考え，47年度の新入生から実施することに決めた。

しかし，私たちはＧＤＭについてはなにも知らない状態だったので，先ず1年間を教師自身の研修期間にした。1年生（49年度卒業生）には週4時間のうち1時間だけをＧＤＭによる時間にとった。勿論私たちはできないので，経験豊かな講師(山田初裕氏)を迎えてスタートした。私たちはできる限り授業を参観し，話し合いを持ち，他校の授業を見せてもらった。夏期の講習会にも参加した。

そして，これは言語活動を高めるに適している方法であるという感じをますます深めるようになった。しかし一方，これは全くたいへんなことであると思うようになった。この方法を効果的にするには，教師の指導いかんがいかに大きく影響するかということであった。文字通り grade された教材であるが，教科書となるテキスト（この学年は使用しなかった）は，教科書とくらべると，文型だけがのっているにすぎない。教師自身が毎時間教材を作り，しかもすぐれた技術を身につけなければならないと実感した。

48年度から1年生に週4時間ＧＤＭで指導した。2年生には週1時間ＧＤＭの時間をとった。ＧＤＭによる方法は2学期までにし，3学期から教科書に切りかえ，ＧＤＭ的に指導した。

49年度は48年度と同様である。特に3年生においては教科書にでてくるいくつかの文型にかぎりＧＤＭ的に指導した。

（英語科スタッフ：　西島誠一　津谷俱子　佐伯千枝子　成井幸子）

NEWS

★　毎年4月の新学期には講師の移動の激しい名古屋では，今年もまた数人の講師が入れ代る。その意味で「初めの一歩」のくり返しと言えないこともないが，講師全員が入れ代ったこともあったのにくらべれば，今年は引き続いて教えていく講師も多いので，これから teaching に，お互いの勉強になどいろんな面で充実をはかる時期にしたいと思う。そんななかで，熱心な山田和歌子さんの1年間の休職は淋しい。また去年1年間ＧＤＭで名古屋Ｙで教えてきて，意欲的な赤崎耕二さんは，Ｙで授業は続けられないけれど，岐阜県内の私立高校教師としてなんらかの形でＧＤＭを，そしてＧＤＭを通じて得たものを生かしてくれるだろう。大阪を離れて名古屋に移ってから一年半。いろんな人たちと知りあって，また空間的に離れることになっても離れがたい心を大切にしたいと思う。そんな People in GDM Nagoya の人たちです。　(Naomi Saito)

★　今年3月25日～28日　ＹＭＣＡ六甲研修センターで初心者及び Advanced Seminar を行なった。参加者70名。

★　今年3月29日～4月2日　東京ＹＷＣＡで Advanced Seminar を行なった。特に English Through Pictures の Book Ⅲ の開拓も試みた。参加者27名。

★　セパレート式　基本英文法　根古谷　常雄編著（千葉大付属中学）が出版された。￥510

Summer Seminar のお知らせ

と　き：1975年8月19日(火)～23日(土)
4泊5日

ところ：日本ＹＭＣＡ同盟東山荘
静岡県御殿場市東山

講　師：伊達　民和（泉北高校教諭）
(ABC順)　東山　　永（ＧＤＭ鎌倉グループ代表）
片桐ユズル（京都精華短大教授）
升川　　潔（（東京女子大学短大部助教授）
中郷　安浩（大阪市大助教授）
根古谷常雄（千葉大学附属中教諭）
小高　一夫（松蔭女子学院大学助教授）
山田　初裕（羽田工業高校教諭）
吉沢　美穂（ＩＣＵ講師・ＧＤＭ英語教授法研究会代表）

内　容：a）Theory
b）Class observation
c）Observation and training
d）Discussion
e）Speech clinic
f）Audio-visual display
g）Recreation　　etc.

※ 実習クラス
このセミナーのためにＹＭＣＡの小学生により実習用クラスを設定し，モデル授業見学，授業方法の実習をおこないます。実習用クラスは，小学5年～6年の子どもたちで，
ⓐ　英語を習いはじめたグループ。
ⓑ　やや進んだグループ。

受講資格：英語教師または英語を教えることに興味のある人

定　員：A……この方法について初めて学ぶ人
(90名)　B……ＧＤＭセミナーの経験がありこの方法による授業の経験のない人
C……セミナーおよび授業の経験のある人

受講料：￥14,000（内 申込金￥3,000で，申込金は返金しない）

宿泊料：￥17,000（4泊5日　食事つき）

教　材：English Through Pictures, Book Ⅰ（￥650）
Teachers' Handbook for English Through Pictures（￥1,200）
その他（参考文献の展示あり）

申込先：（〒550）　大阪市西区土佐堀通
大阪ＹＭＣＡ英語学校
ＧＤＭセミナー係
Tel. 06－441－0892

しめきり：7月31日　ただし定員に達ししだい締切りますので早目にお申込下さい。

申込方法：申込書と申込金 3,000円を添えて申込んで下さい。(郵送は現金書留)
受講料，宿泊料，教材費は現地で納入下さい。

共催：ＧＤＭ英語教授法研究会
大阪ＹＭＣＡ英語学校

第5回　公開公演会（関西支部主催）のお知らせ

日時：　1975年6月7日（土）
2：30～5：00　p.m.

場所：　朝日新聞ビル13階
大阪市北区中之島3－3
Tel. 06(202) 9340

講演：「イデオロギーとしての英会話」
ダグラス・スミス氏（津田塾大学講師）

授業公開：生徒 ― 堺ＹＭＣＡ　中一クラス
授業者　小高一夫（松蔭女子大学助教授）

司会：足立正治（甲南中・高等学校教諭）

編集後記

昨年は「外国語教育の改革案」や「英語教育の改善に関するアピール」などが世に出された。今年は，じっくりと「教育の原点」を問いただすよい機会ではなかろうか。(根古谷，ミカ川)